



エコ・ファーストの約束（更新書）

～ 環境先進企業としての地球環境保全の取り組み ～

平成29年10月2日

環境大臣 中川雅治 殿

株式会社クボタ

代表取締役社長 木股昌俊

クボタグループは、食料・水・環境の分野で、社会の発展と地球環境の保全に貢献する企業グループでありたいと考え、地球環境の保全を事業経営の最重要課題と位置づけ、以下の取り組みを進めてまいります。

1 地球温暖化の防止に向けた取り組みを重点的に実施します。

- (1) 国内外のクボタグループの生産事業所において、生産高当たりのCO₂排出量を2014年度比で2020年度に14%以上削減します。
- (2) 国内外のクボタグループの生産事業所において、生産高当たりのエネルギー使用量を2014年度比で2020年度に10%以上削減します。
- (3) 長期目標として2030年度に、国内クボタグループのCO₂排出量を2014年度比で30%削減します。
- (4) 上記目標達成のため、生産設備・空調機器・照明機器等の高効率化、生産設備の燃料転換、建物や設備の高断熱化、太陽光発電の導入、エネルギーの見える化とムダ取り、廃熱回収等、利用可能な最先端技術の導入を最大限実施します。

2 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に実施します。

- (1) 国内外のクボタグループの生産事業所において、廃棄物の3R（Reduce・Reuse・Recycle）の取り組みを推進し、生産高当たりの廃棄物排出量を2014年度比で2020年度に10%以上削減します。
- (2) 廃棄物の再資源化を推進し、2020年度に国内生産事業所が排出する廃棄物の再資源化率*を99.5%以上に、海外生産事業所の再資源化率*を90%以上にします。
※再資源化率(wt%) = (有価物売却量+社外再資源化量) ÷ (有価物売却量+社外再資源化量+埋立量) × 100
社外再資源化量には熱回収量を含みます。
- (3) 国内外のクボタグループの生産事業所において、水の3R（Reduce・Reuse・Recycle）の取り組みを推進し、生産高当たりの水使用量を2014年度比で2020年度に10%以上削減します。

3 大気環境への負荷低減に取り組みます。

国内外のクボタグループの生産事業所において、生産高当たりのVOC*排出量を2014年度比で2020年度に10%以上削減します。

※削減対象VOCは、キシレン、トルエン、エチルベンゼン、スチレン、1,2,4-トリメチルベンゼン、1,3,5-トリメチルベンゼンの6物質とします。

4 環境配慮性の高い製品の開発に取り組みます。

- (1) 製品の開発段階において環境性能の向上とライフサイクル環境負荷の削減に取り組み、エコプロダクツ認定製品の売上高比率*を2020年度に60%以上にします。また、2030年度に同比率*を80%以上にします。
さらに、2030年度以降に上市する新製品は全てエコプロダクツ認定製品をめざします。
低炭素型製品・サービスの提供による省エネルギー効果を定量的に把握し、顧客等に積極的に情報提供を行います。
※エコプロダクツ社内認定制度で基準をクリアした製品の売上高比率
エコプロダクツ認定製品売上高比率(%) = エコプロダクツの売上高 ÷ 製品の売上高(工事、サービス、ソフト、部品・付属品を除く) × 100
- (2) 鋳物製品・部品のリサイクル素材利用率*として70%以上を継続します。
※クボタグループで製造する鋳物製品・部品(ダクタイル鋳鉄管、異形管、機械鋳物(エンジンのクランクケース等))でのリサイクル素材利用率(wt%)です。
- (3) 日米欧の最新の排出ガス規制に対応した産業用ディーゼルエンジンを開発し、搭載製品*を市場投入します。
※欧州EU規制(Euro Stage IV)相当に対応したエンジンを搭載した欧州・北米・日本・韓国向けトラクタ、コンバイン(出力帯: 56kw ≤ P < 560kw)を対象とします。

5 生物多様性の保全のための活動を推進します。

- (1) 生物多様性の保全のための活動指針に基づいて、事業活動に伴う環境負荷や環境リスクを適切に管理するとともに、事業所内の緑化やビオトープの設置を通して、自然環境の保護を推進します。
- (2) 社会貢献活動「クボタeプロジェクト」の耕作放棄地再生支援活動や里山・森林の保全活動などを通して、自然環境の保護を推進します。

株式会社クボタは、上記取り組みの推進状況を確認するとともに、その結果について環境省への報告及び事業・CSR報告書などによる公表を行ってまいります。

For Earth, For Life
Kubota